

みくるべひがしこうち
三廻部東耕地遺跡

秦野市No.125

- 調査期間** 2017年6月16日～調査中
- 所在地** 秦野市三廻部
- 時代** 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 遺跡位置** 秦野市西端部にあたり、酒匂川支流の四十八瀬川右岸、標高250mの河岸段丘上に位置する。



主な調査成果

平安時代から中世にかけての柱穴が2000基以上確認されました。また、中央に炉をもつ中世の竪穴状遺構が発見されており、本遺跡の中世段階を特徴付ける成果となっています。

縄文時代では、五領ヶ台期の住居跡が良好な状態で検出されています。



6区 平安時代竪穴住居跡



6区 出土縄文土器（五領ヶ台式）